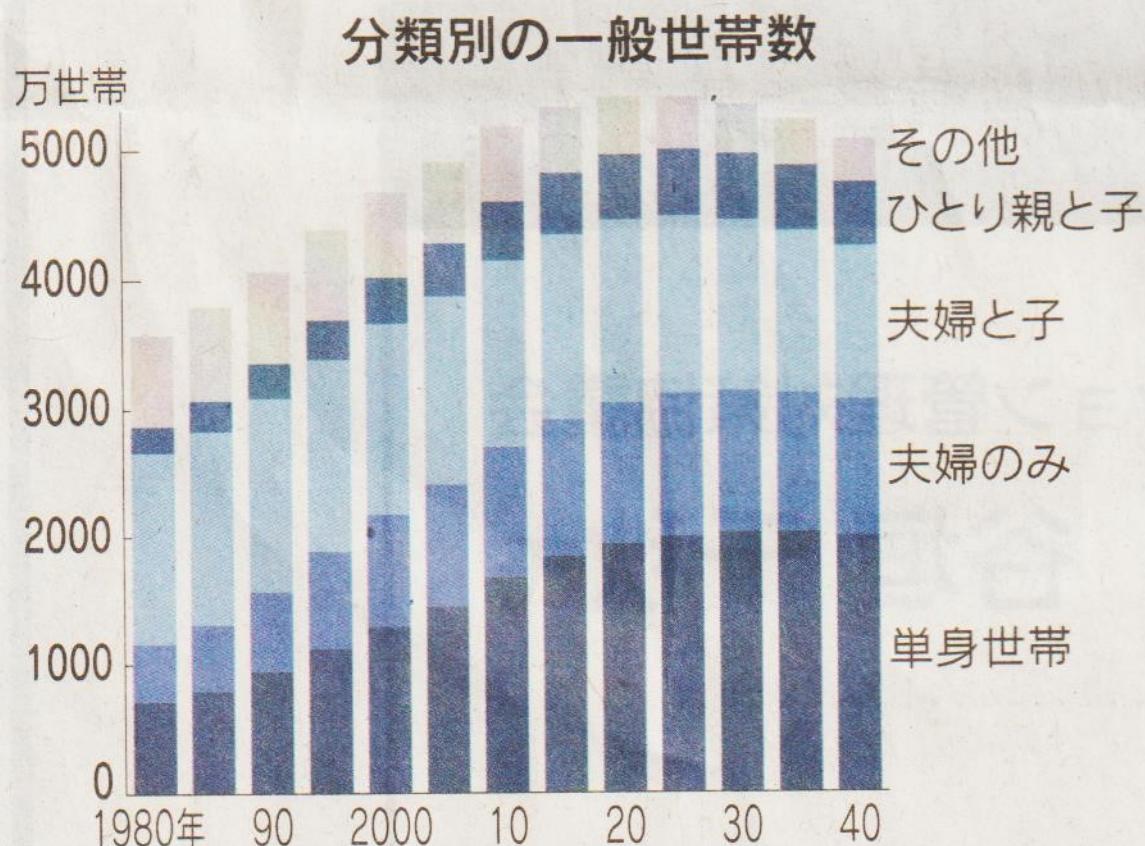


日本の世帯数



(出所) 2015年までは国勢調査、以降は国立社会保障・人口問題研究所予測

「単身」が3分の1占める

▽：主に住居や生計をともにする人の集まりや単身者を1つの「世帯」として数える。現在の日本の統計では「一般世帯」と、寮で共同生活する学生や福祉施設の入居者、営舎で生活する自衛官などの「施設等の世帯」に区分される。

2015年の国勢調査では総数が5344万世帯で99%以上を一般世帯が占めた。

▽：一般世帯の数は過去30年で4

割増えた。著しく伸びたのが単身世帯を示す「単独世帯」だ。15年時点での1841万世帯と30年前の2・3倍で、全体に占める割合は34・5%と分類別で最多になった。次いで多いのは「夫婦のみの世帯」。26・8%を占めるが数としては同6%減り、「夫婦のみの世帯」が倍増して1000万を超えた。高齢世帯や都市部の若年層が

・人口問題研究所の推定によると一般世帯数は23年の5418万世帯をピークに減少に転じる。夫婦のみの世帯は25年に、单身世帯も32年に頭打ちになる見通しだ。総人口が減つても世帯が細分化されることで世帯数がえてきたが、こうした状況も終わる。

きょうのことば